

令和6年度

事業計画書

学校法人 常葉大学

目 次

1. はじめに	1
2. 重点事業計画	2
3. 管理・運営計画	3
4. 財務計画	5
5. 施設・設備整備計画	6
6. 教育活動計画	7

1. はじめに

理事長 木 宮 健 二

本法人は、令和6年1月22日、JR浜松駅南口近接地について浜松市と用地売買に関する仮契約を締結しました。浜松市浜名区にある常葉大学浜松キャンパスを移転するためです。浜松キャンパスは郊外型キャンパスで、交通アクセス面での課題を抱えておりましたが、浜松市中心街に移転することによって通学の利便性を向上させ、募集活動にも一層力を入れて入学者数の増加を図ります。さらに近隣に所在する国公立大学との連携を深めて、教育力・研究力の向上に取り組めます。この移転につきましては、令和10年4月までの開校を目途に、全学の教職員が一丸となって準備を進めてまいります。

令和5年5月、私立学校が社会の信頼を得てなお一層発展していくためのガバナンス改革を進めるために改正私立学校法が成立し、令和7年4月から施行されます。本法人においても適切なガバナンスの下で法人の運営を行っていくために、改正法施行に対応した寄附行為及び関係規程等の改正を行ってまいります。

さて、長期的な展望に立てば、近年における出生数の大幅な減少から厳しい経営環境を強いられることは確実です。また、AIやロボットといった革新的な技術によるSociety5.0時代に対応できる教育も推進する必要があります。本法人では小学校から大学院まで、With コロナに対応した教育環境を整えるため、ICT教育に積極的に取り組み、教育の質の維持・向上を図ってまいりましたが、今後の少子化や急激な社会の変化に的確に対応し、地域に根差し選ばれる教育機関であり続けるために、本計画に基づき不断の改革を進め、教育研究活動の充実に努めてまいります。

2. 重点事業計画

本法人における重点事業計画は、私立学校及び本法人を取り巻く現況を踏まえ、設置する各学校等の教育事業及びこれに附随する事業を推進するために策定したものです。長期ビジョン『地域と連携し、地域創生に貢献する』及び第2期中期計画（実施年度：令和3年度～令和7年度）との整合性にも配慮して策定しました。

令和6年度におきましては、継続する3つの事業に新たな2つの事業を加え、下記5つの重点事業計画を着実に実行してまいります。

- (1) 常葉大学浜松キャンパス移転計画の推進<新規>
- (2) 改正私立学校法に的確に対応した寄附行為等の改正<新規>
- (3) 大学及び短期大学と附属高校との高大接続教育の推進<継続>
- (4) 定員確保のための募集活動の強化と入学定員の適切な管理<継続>
- (5) 事務の電子決裁システム等のDX化※導入計画の推進<継続>

*DX化

「DX」は Digital Transformation の略語。データ及びデジタル技術を活用して業務自体または組織、プロセスを変革すること。デジタル技術の活用が単なる業務効率化やコスト削減に留まらない点が、IT化とは異なる。

3. 管理・運営計画

(1) 私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更及び内部統制システムの整備

学校法人のガバナンス改革を目的とした私立学校法の一部を改正する法律が令和5年5月8日に公布され、令和7年4月1日から施行されることとなりました。

本法人においては、令和5年7月から、改正私立学校法の概要について関係部局の間で相互理解、情報交換を深めるとともに、常務理事会等において、寄附行為の見直しの方針について協議を重ねてきました。

令和6年度は、「学校法人常葉大学寄附行為」の変更について引き続き協議・検討し、理事会・評議員会の決議を経て、文部科学省に認可申請を行います。

さらに、この機会に理事会・評議員会、常務理事会等の運営方針を見直し、より一層会議の実効性を高めるとともに、内部統制システムの整備にも着手してまいります。

(2) 働き方改革の推進及び人事制度の再構築

本法人における働き方改革の推進については、中学・高校の教員を対象に1年単位の変形労働時間制度の導入と適正な運用の定着化を進めています。既に導入済みの橘中・高等学校と常葉中・高等学校では適正な運用に伴う制度の定着化を進めており、菊川中・高等学校では令和6年度からの導入を予定しております。

事務職員のキャリアパス複線型化については、本法人における制度設計の最終案を令和6年度前期までに固め、後期に職員へ事前説明を行う予定です。現段階では令和7年度からの導入を目指しておりますが、職員の人事や給与に関わることであるため、丁寧な説明期間を設けることも重要であると考えております。

(3) 自己点検・評価、認証評価、第三者評価、学校評価の推進

法人内各校（園）は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するために、教育研究活動等の状況について自己点検・評価、認証評価、第三者評価及び学校評価を行います。それによって、教育研究活動の継続的な質の保証を図るとともに、自主的な改革・改善に引き続き取り組んでまいります。

(4) 監査機能の強化

監査については、監事、会計監査人（監査法人）、内部監査担当部門（監査部）がそれぞれの立場や観点からチェックを行う三様監査を実施しています。今後とも、本法人の発展と社会的信頼の保持のため、監査体制、監査計画等の改善に努めるとともに、三者の連携強化を図り、監査の質の向上と効率化を推進してまいります。

4. 財務計画

人口の少子高齢化や、物価高騰などが急速に進行する局面を迎え、私立学校法人を取り巻く環境は大変厳しいものとなっております。そのような状況下においても、長期的に健全かつ安定的な経営を可能とする財務体制を確立するため、以下の施策に取り組んでまいります。

(1) 財務基盤の強化

教育研究活動を永続的に保つための資産に相当する金額を維持した上で、事業活動収入と支出の均衡を図り、より強固な財務基盤を構築してまいります。

引き続き、リスク分散を重点に置いた安全な資金運用を行います。経済の動向を注視しながら、柔軟に対応することで運用益を確保してまいります。

尚、この先、常葉大学浜松キャンパスの移転に伴う大型投資が見込まれますが、これまで積み上げてきた有価証券や現金預金等をはじめとする金融資産を原資に事業遂行することとしております。

(2) 事業の効率的執行と経費の削減

予算編成方針において、教育環境の充実を確保した上で、収入の獲得になる予算を優先し、より効率のよい予算編成をいたします。

加えて、限られた予算を有効活用するため、執行段階においても慎重に精査を行ってまいります。

5. 施設・設備整備計画

学校施設は、学生・生徒・児童・園児が学習と生活の場として一日の大半を過ごす重要な場所であるばかりか、災害時には近隣住民の緊急避難先にもなる重要な施設としての性格も併せ持ちます。したがって、通常時や緊急時においても安心・安全な施設としての機能を維持することを最優先するとともに、急速な少子化や情報化社会の進展など、様々な社会環境の変化に的確に対応できるよう計画的な整備を進めてまいります。

令和6年度は、常葉大学浜松キャンパスの移転事業を推進してまいります。

○ 令和6年度大型事業

(1) 常葉大学浜松キャンパス移転事業

- *校地取得
- *校舎設計施工契約

(2) 常葉大学静岡水落キャンパス校舎増築事業

- *校舎増築設計、施工契約

(3) ICT（情報通信技術）教育設備整備推進事業

- *常葉大学静岡草薙キャンパス、常葉大学静岡水落キャンパス、常葉大学浜松キャンパス
- *常葉中・高等学校、橘中・高等学校

(4) 券売機等新紙幣・新硬貨対応事業

- *常葉大学全キャンパス

(5) 新校務支援システム導入

- *常葉中・高等学校、橘中・高等学校、菊川中・高等学校、橘小学校

6. 教育活動計画

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究に取り組むことによって、更に充実した教学運営を行うことを目指しています。令和6年度も、第2期中期計画における教育活動の実施状況を踏まえながら、以下に掲げる計画を中心に推進します。

○ 大学・大学院、短期大学

〈常葉大学・大学院〉

1. 教育力の向上と学生支援の強化

- (1) IRの整備とともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進します。
- (2) 本学独自の入学前教育の構築を進めるとともに、入学後の学生のさまざまなニーズに応じた学修支援体制を整えます。
- (3) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、教職員と学生の協働を進めます。
- (4) 人生100年時代あるいはSociety5.0といった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進します。

2. 研究活動の推進

- (1) 企業等との共同研究を含め外部資金の獲得に向けて、取り組みの強化を継続します。
- (2) 学内研究者間の情報交換及び研究者間交流を促進します。

3. 学生募集の強化と高大連携の推進

- (1) 18歳人口減少に対応した学生確保対策を推進します。
- (2) 附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を推進します。
- (3) 探究に関する学習支援を通して、高大連携活動を強化します。

4. 地域貢献活動及び同窓会との連携活動の充実

- (1) 地方自治体等との連携事業を通し、地域社会の発展や活性化に貢献する人材を養成します。
- (2) 同窓生からの意見を聴く機会を設け、教育研究の更なる活性化に繋がります。
- (3) 同窓会のネットワークづくりに着手し、大学と同窓生との連携強化に取り組みます。

5. 業務運営等の充実及び改善

- (1) 学内広報を充実させるとともに、教職協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指します。
- (2) 研究倫理教育を含めコンプライアンス遵守のための啓発活動を継続します。

〈常葉大学短期大学部〉

1. 教育力の向上と学生支援の強化

- (1) IR の整備とともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進します。
- (2) 本学独自の入学前教育の構築を進めるとともに、入学後の学生のさまざまなニーズに応じた学修支援体制を整えます。
- (3) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、学生の満足度を更に高めます。
- (4) 人生100年時代あるいは Society5.0 といった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進します。

2. 研究活動の推進

- (1) 外部資金の獲得に向けて、取り組みの強化を継続します。
- (2) 研究の質の向上を目指し、常葉大学と連携し共同研究や研究者交流に取り組みます。

3. 学生募集の強化と高大連携の推進

- (1) 18歳人口減少に対応した学生確保対策を推進します。
- (2) 附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を推進します。
- (3) 探究に関する学習支援を通して、高大連携活動を強化します。

4. 地域貢献活動及び同窓会との連携活動の充実

- (1) 地方自治体等との連携事業を通し、地域社会の発展や活性化に貢献する人材を養成します。
- (2) 同窓生からの意見を聴く機会を設け、教育研究の更なる活性化に繋がります。
- (3) 同窓会のネットワークづくりに着手し、大学と同窓生との連携強化に取り組みます。

5. 業務運営に関する計画

- (1) 学内広報を充実させるとともに、教職協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指します。
- (2) 研究倫理教育を含めコンプライアンス遵守のための啓発活動を継続します。

○ 高等学校、中学校

〈常葉大学附属常葉中学校・高等学校〉

1. 学習指導

- (1) ICT 環境を整備し、全ての職員が日常的に ICT を使いこなす環境を整え、思考力や問題解決力、表現力を育む授業改善に取り組みます。
- (2) 基礎学力の定着と学習習慣の確立を可視化する仕組みを作ります。

2. 進路指導

- (1) コース、系列における将来の職業（進路）を見据えた資質・能力の向上を1年次からの継続した指導の中で行います。
- (2) 附属高校入試制度を高校1年次から理解させ、3年次の在籍者の50%以上が常葉大学及び短期大学部への進学が図れるように指導をします。

3. 生活指導

- (1) 生徒ファーストの生徒指導に徹し、生徒の社会性や自律性を養うことで、生徒の満足度を高めます。
- (2) 全ての学校活動において、生徒自身が考え、主体的に活躍できる場を提供し、学校生活に充実感や満足感が持てるように導きます。

4. 教員の教育力強化

- (1) 年間の研修テーマを設定し、授業力向上の研修の仕組みを策定します。
- (2) 外部の研修会へ積極的に参加するように推進します。

5. 保護者・卒業生・地域との連携

- (1) 令和7年度に向けPTA、母の会の一体化を推進し、協力体制を整えます。
- (2) 本校に対する声を前向きに受け止め、生徒、保護者、同窓生、地域から信頼される学校を作ります。

6. 生徒募集

- (1) 生徒主体の学校説明会に大きく舵をとり、本校の特色を理解してもらえる内容にします。
- (2) ホームページを一新し、インスタグラムや LINE 等の SNS を通じ、本校の魅力を発信します。

7. 組織の活性化

- (1) 「未来構想委員会」を設置し、学校改革を推進します。
- (2) 中等部、広報、ICT・研修、探究学習の4つのプロジェクトチームを作り、1年を通して課題を解決しながら成果をあげます。

8. 中高一貫教育

- (1) 実学を基軸とした中高6年間の進路指導を行います。
- (2) 中学の探究学習を高校でも発展できる仕組みを作り、授業内での活動を活発にします。

9. 常葉大学及び短期大学部との高大接続教育

- (1) 高校の連携講座を水曜日に実施し、高校大学ともに双方向の学びができるように、推進します。
- (2) 水落キャンパスの One Campus 構想（人的な交流と施設共有）を推進し、本校独自の魅力を構築します。

〈常葉大学附属橘中学校・高等学校〉

1. 学習指導

- (1) 基礎学習を徹底させた上で、教科横断型の教育(STEAM 教育)を推進します。
- (2) スクールポリシーに沿った授業を展開し、問題解決型学習や探求型学習を推進します。
- (3) ICT を積極的に取り入れ、生徒自身の個別の学びを実践します。
- (4) 計画性のある指導と評価の一体化を目指し、新学習指導要領への対応するための変革を一層図ります。

2. 進路指導

- (1) 適切な時期に適切な情報共有や意識の啓発を行うために計画的にガイダンス等を企画・実施し、進路選択ができる機会を創出していきます。
- (2) 英数科・普通科の進路実績を高めるために、チームを組んで進路指導を強化します。
- (3) 附属高校入試に備えるため、1年次から「学びに対する広さ」を涵養していきます。
- (4) 附属高校入試制度等に基づいて、常葉大学及び短期大学部への進学指導の充実を図ります。

3. 生活指導

- (1) 規律を遵守し、主体的に考え、TPO に応じた行動ができる生徒を育てていきます。
- (2) 生徒自らが考える判断を尊重し、生徒の成長に寄り添い、生徒指導から生徒支援に変化させていきます。

4. 教員の教育力強化

- (1) ICT 教育機器使用のスキル向上のための研修を今後も継続的に実施していきます。
- (2) 外部企業とタイアップして教員研修(橘研修)を実施し、校内での情報共有の場を設けていきます。

5. 保護者・卒業生・地域との連携

- (1) 静岡市とSDGs 共同宣言校として、社会的課題の発見や視点を深めていきます。
- (2) 文部科学省認定の地域協働推進アソシエイト校として、地域の企業と今後も連携性を強

め、産学官との連携を進めます。

6. 生徒募集

- (1) 定員確保に向けての戦略を早期から検討していきます。
- (2) ホームページや SNS を利用した募集戦略を継続的に強化していきます。
- (3) 橘高校をより多くの生徒・保護者に知ってもらうための活動を進めていきます。

7. 組織の活性化

- (1) 学校改革推進部と教育開発部を中心に、橘の「新しい教育」を推進します。
- (2) 働き方改革を視野に入れ、組織として質の高い勤務体制を目指します。

8. 中高一貫教育

- (1) 中学 3 年間の iPad の使用経験を高校に繋げ、ツールとしての更なる効果を目指します。
- (2) 中高 6 年間の様々な進路目標に対応できる学力の養成を図ります。

9. 常葉大学及び短期大学部との高大接続教育

- (1) 高大連携教育の中身を精査し、より実践的なものに発展させていきます。
- (2) 大学生との交流等を深め、将来の視野を広げるような取り組みを目指します。

〈常葉大学附属菊川中学校・高等学校〉

1. 学習指導

- (1) 基礎知識を身に付け、融合させ、多面的な思考力を養います。
- (2) 知的好奇心を育む授業展開によって、論理的な思考力を養います。
- (3) 探求学習において、SDG s を学び地域社会の課題を考える力を養います。
- (4) 教科横断型の授業を目指し、多角的に考える力を養います。

2. 進路指導

- (1) 生徒一人ひとりに合わせたきめ細かな進路指導に努めます。
- (2) 各科・コースが求める教育目標に合わせた特色ある進路指導を行います。

(3) 卒業生（学生・社会人）と連携したキャリアデザイン教育を行います。

3. 生活指導

(1) 部活動を通し、社会性の育成に努めます。

(2) ボランティア活動への積極的な参加によって、地域社会の貢献に対する意識を高めます。

4. 教員の教育力強化

(1) 校内研修会等で個々の教員のスキルを他の教員と共有し、ICT 教育の向上を図ります。

(2) 生徒への授業アンケートを通して、授業の改善と向上に努めます。

5. 保護者・卒業生・地域との連携

(1) 菊川市とのフレンドシップ協定「みらい学」の地域探求学を通して、問題解決力を養い地域貢献に努めます。

(2) PTA、同窓会、後援会との共同活動を通して、在校生への教育活動の一助とします。

6. 生徒募集

(1) 本校の教育内容を説明会等で伝え、多くの受験生と保護者に広めます。

(2) 生徒・保護者に本校の特色ある教育を提供し、その魅力を多くの方に広めます。

(3) 3カ年、6カ年の教育内容を充実させ、その魅力を多くの方に広めます。

7. 組織の活性化

(1) 各科・コースの行事を共同で実施し、互いに刺激し合い変化します。

(2) 各科、コース、分掌が情報を共有化し、問題点を多方面から検討します。

(3) 教職員のモラル等の研修会を行い、生徒・保護者から信頼される学校づくりを行います。

8. 中高一貫教育

(1) 中高6カ年の教育活動を通して生徒一人ひとりの成長に繋がります。

(2) 少人数教育による学習成果を高め、より高い目標に挑戦する生徒を育てます。

9. 常葉大学及び短期大学部との高大接続教育

- (1) 進路の時間に常葉大学及び短期大学部における学びを知る機会を増やします。
- (2) 探求学、みらい学における問題の分析や解決に大学の教育力を活用し連携を深めます。

○ 小学校、こども園

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

1. 生きる力を身につけた児童の育成

- (1) 学校教育目標を「未来を切り拓く「生きる力」を育てる」に刷新し、未来志向を鮮明にします。
- (2) 本校伝統の教育方針である「三方よし」をより一層浸透させるために、「いつでも どこでも 三方よし」を合言葉にして継承します。さらに、「三方よし」の「自分よし」を自己肯定感、「相手よし」を思いやり、「みんなよし」を社会貢献として価値付けます。
- (3) 1学級20人程度の少人数指導を「一人ひとりに力をつける少人数指導」とし、その基盤に立って先進的な授業やオーケストラ学習等の「特色あふれる楽しい学校」づくりを目指します。

2. 小中一貫教育の検討

- (1) 小中学校の教育内容から、具体的に連携できる部分を検討します。
- (2) 授業、研究会、行事等で教員の交流を図ります。
- (3) 小学校4年生の児童、保護者を対象に法人内3中学校の説明会を行い、法人内の学校に進学するメリットを伝えます。

3. 幼小の連携

- (1) 小学校1、2年生の生活科の授業の中で、とこは幼稚園、たちばな幼稚園と交流します。
- (2) 教員が授業や保育を互いに参観することによって、それぞれの教育、保育について理解を深めます。

4. 大学との連携

- (1) 教育学部附属の研究実践校として、教育学部との共同研究による質の高い授業実践に努めます。
- (2) 大学院・大学の実習を教育活動の質の充実という観点で捉え、積極的に活用します。
- (3) 教育学部の学生によるスクール・サポート・スタッフ事業を定着させ、学校、学生双方にとって意義ある連携にします。

5. 教員の資質向上

- (1) 地域の人材活用、ゲストティーチャーの招聘、民間企業との連携等を積極的に進めます。
- (2) 多様化する児童のため、特別支援教育の研修の他、各種関係機関との連携を充実します。

6. 児童募集

- (1) 本校の特色や魅力を十分に理解してもらうために、学校説明会の改善、インスタグラムの充実、ホームページのリニューアル、オーケストラの出前演奏等に努めます。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園〉

1. 子どもの健康・安全の確保

- (1) 園児の発達年齢に応じた安全且つ安定した生活環境の設定に努め、心と体を十分に働かせることができるよう工夫します。
- (2) 家庭と連携し、園児が健康な生活リズムを身に付けられるように一人ひとりに応じた取り組みを心掛けます。
- (3) 収穫体験や調理体験を家庭と共有し、園児の食への関心を高め、食育の充実を図ります。

2. 充実した保育・教育活動の実施

- (1) 園児が能動的・主体的に、遊びに没頭できるような乳幼児期にふさわしい生活が展開される保育を行います。
- (2) 近隣の自然に触れたり、季節に合わせた環境を整えたりし、園児が積極的に周囲と関わる体験を大切にします。
- (3) 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を視点とし、豊かな体験を通して乳幼

児期の資質・能力を育む保育に努めます。

3. 園行事の柔軟な実施

- (1) 園児の育ちに応じた行事の計画を立て、園児が自ら進めたいくなるような内容・方法の工夫を心掛けます。
- (2) 保護者の参加行事を通し、親子の愛着形成の重要性を理解してもらうように工夫します。

4. 常葉大学、短期大学部及び附属橘小学校との連携

- (1) 附属幼稚園として、学生の教育・保育実習や多様な研究協力の場を提供します。
- (2) 教育・保育実習の受け入れにおいて、保育記録、保育計画等を工夫した実習の在り方を探ります。

5. 職員及び職員組織の力量の向上

- (1) 職員がブラッシュアップできる内容の研修に参加し、教育・保育の質向上に努めます。
- (2) 積極的に ICT を活用し、自分たちの保育を保護者と共有し、保育理解に繋がるよう工夫します。

6. 園児募集

- (1) 未就園児親子に対し、行事に参加できる機会を設け、園の良さをアピールできるようにします。
- (2) 未就園児親子と在園児保護者のお互いが子育てに関して情報交換できる場や機会を設けます。
- (3) インスタグラムを利用し、日常の保育の様子や園が大事にしている教育・保育方針をアップし、効果的に園を広報できるよう努めます。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園〉

1. 子どもの健康・安全の確保

- (1) 園児が安全に過ごせる園の環境づくりを促進します。

(2) 人権尊重の視点に立った保育・教育を実施します。

2. 充実した保育・教育活動の実施

(1) 本園の「目指す園児の姿」の実現に向けた保育・教育を実施します。

(2) 遊びを主とした園児の主体的な取り組みを促す環境づくりを推進します。

3. 園行事の柔軟な実施

(1) 主旨や目的を明確にした、園児の充実感や達成感を育む行事を計画して実施します。

(2) 社会情勢の変化を踏まえた、柔軟な対応を図ります。

4. 常葉大学、短期大学部及び附属橘小学校との連携

(1) 常葉大学、短期大学部及び附属学校各校（園）との研究協力、実習協力、交流等について努めます。

5. 職員及び職員組織の力量の向上

(1) 職員各自の目標を設定し、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取り組みを促進します。

(2) 一人ひとりが外部研修の参加や園内研修での学びを深め、自己研鑽に励み組織力向上に努めます。

6. 園児募集

(1) 本園の魅力を理解に繋げる体験会や説明会の実施を通じて、安定的な園児確保に努めます。

(2) ホームページやポスター等を活用し、本園の魅力発信を推進します。

○ 附随事業

〈常葉大学リハビリテーション病院〉

1. 医療従事者等養成校との連携

(1) 学校教育としての実習受け入れ態勢を整えるとともに、医療従事者等養成校との連携を

深め、適切な臨床実習を実施します。

2. 組織の活性化

- (1) 安全で適切な医療提供体制を確保し、安定した病院運営を遂行していくために、必要とする医療従事者を確保します。
- (2) 国の施策や定期的な診療・介護報酬改定を基に、安定した医療収入の確保対策を実施します。
- (3) 回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、24時間365日充実したチーム医療を提供できるよう施設・設備の整備計画を策定し、着実に実施します。